令和元年７月３１日

バンコク産業情報センター

鈴木　太郎

タイのスタートアップについて
一般調査報告書

４月のレポートで、シンガポールを中心にアセアンのスタートアップについて報告しましたが、近年、タイでも少しずつスタートアップ企業に対する注目が高まっており、コワーキングスペースの設立やアクセラレーターによる起業家支援、ファンドやスマートビザの導入など、官民によるスタートアップ支援のエコシステムが育ってきています。

タイやアセアンの市場を目指し、日本からタイに進出するスタートアップ企業もおり、在タイ日本大使館では、タイや日本のスタートアップ企業とタイ財閥とのマッチングをコンセプトに「Embassy Pitch」といった取り組みも行っています。

こうした中、バンコクにスタートアップ支援施設「トルゥー・デジタル・パーク」が今年新たに完成し、7 月 23 日～27 日にかけて、スタートアップイベントの「スタートアップタイランド」が開催されました。

愛知県では昨年、「Aichi -Startup 戦略」を発表し、支援拠点整備の検討も行っており、今回は、この施設概要やイベントについてご紹介したいと思います。

「トルゥー・デジタル・パーク」はタイ財閥のチャロン・パカポン（CP）グループが開発する複合施設の一部で、タイにおけるデジタルイノベーションの拠点を目指しています。

場所は、BTS スクンビット線のプンナウィティー駅に高架歩道で直結しており、バンコクの中心（サイアム駅）から電車で 20 分程度のところにあります。

スタートアップ支援の中心となる「Inovation Area」には、座席数が 400 名以上ある「コワーキングスペース」や、成長したスタートアップ用の「オフィススペース」、企業同士のネットワーキングやイベントが開催できる「イベントスペース」、オープンラボや体験センターなどの「イノベーションスペース」に分かれています。

Wi-Fi 環境も毎秒 1 ギガビットの高速インターネットが提供されているほか、共有のパントリーや休憩スペース、コーヒーショップ、コンビニなどもあります。

（コワーキングスペース）

（ミーティングルーム）

（コーヒースタンド）

（コンビニエンスストア）

コワーキングスペースにはクッキングスペースもあり、「クックパッド」のような IT と料理を組み合わせたようなビジネスにも活用できたり、またイノベーションスペースには、Huawei の研究ラボや、Google のデジタル技術訓練施設なども入居しており、こうした世界的な IT 企業とのネットワークづくりも可能となっています。日本企業ではリコーが入居しており、デジタルプリンターや IT 技術を使ったオフィスソリューションの体験センターを開設しています。

コワーキングスペースの利用料金は、1 人当たり月 7,500 バーツ（約 25,000 円）で利用することが可能で、人数が増えると更にリーズナブルな値段で利用できます。

（共同クッキングスペース）

（ファーウェイ）

（グーグル）

（リコー）

また、政府機関によるスタートアップ企業支援のための「スタートアップ・タイランド・センター」が開設され、税制優遇や外国人向けの長期滞在ビザの発給手続きを受けることが出来るほか、商業開発局の事務所や法律事務所も併設され、税務・法務上のサポートが受けられます。

「Residence Area」には、41～50 階建ての高層マンションが 3 棟あり、1000 万円～4000 万円程度で販売しており、賃貸で入居することも可能となっています。

「Life Style Erea」には、飲食店やコンビニ、スーパーなど 200 店以上の店舗があり、日系では「吉野家」や「マツモトキヨシ」なども出店しているほか、スポーツジムや金融機関なども入っています。

ここにいれば衣食住すべて賄うことが出来るようになっており、交通渋滞の激しいバンコクの中心部を避け、この施設にオフィスや住居を移転したスタートアップ企業のオーナーもいるそうです。

さて、今回開催された「スタートアップタイランド」は、今年が 4 回目の開催となり、中国やシンガポールなどアジアだけでなく、フランスやドイツなど世界 25 か国から約 500 社以上のスタートアップ企業が参加していました。

会場内には各国や大学といった区分でブース出展が行われており、スタートアップ企業が自社の商品やビジネスモデルを PR していたほか、ピッチイベント、メンターとの相談、セミナーなどがいたるところで行われ、講演は約 100 テーマ、20 か国から約 200 名のスピーカーが参加するなど、スタートアップの熱気を感じられるイベントとなっていました。

日本からもスタートアップ企業が出展しており、大阪市や福岡市といった自治体によるプレゼンテーションも行われていました。

イベント主催者のタイ高等教育科学研究イノベーション省のスィット大臣によると、今回のイベントにおける期間中の入場者数は約 6 万人、投資家からは 150 億円を超える投資額が見込まれているとのことでした。

（ドイツブース）

（大学ブース）

（ピッチイベント）

（大阪市プレゼン）

デジタル技術の急速な進展に伴い、革新的なビジネスモデルにより急成長するスタートアップ企業に対する期待はアセアンでも高まっており、タイからもいわゆるユニコーン企業（評価額 10 億ドル以上の非上場ベンチャー企業）が生まれる日も遠くないかもしれません。

当センターでは引き続き、アセアンにおける現地情報をレポートしてまいります。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。
バンコク産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。
本情報の採否は読者の判断で行ってください。
また、万一不利益を被る事態が生じましても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。